

2 愛防第 40 号  
令和 2 年 7 月 31 日

各関係機関・団体長 殿

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第 2 号）を下記のとおり発表したの送付いたします。

令和 2 年度 病虫害発生予察注意報（第 2 号）

令和 2 年 7 月 31 日  
愛 媛 県

病虫害名 斑点米カメムシ類（ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ等）

作物 水稲(早期～普通期)

1 発生地域 県下全域

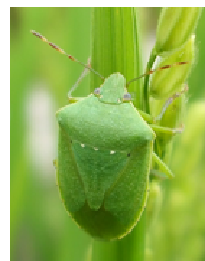
2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- (1) 7 月中旬の定点調査では、早期栽培の本田における発生圃場率は平年の約 2.5 倍、掬取り虫数は平年の約 7.8 倍となっている。また、畦畔では、発生地点率が平年の 1.7 倍、掬取り虫数は平年の約 1.3 倍となっている（表 1）。
- (2) また、普通期栽培では、本田、畦畔とも掬取り虫数は平年並であるが、本田の発生圃場率は平年の約 2 倍、畦畔の発生地点率は約 1.6 倍となっている（表 1）。
- (3) 本田ではホソハリカメムシが、畦畔ではアカスジカスミカメが主要な発生種であった（図 1）。
- (4) 予察灯の誘殺数は、6 月後半から平年に比べて多く推移している地点がある（図 2）。
- (5) 四国地方の 1 か月予報（令和 2 年 7 月 23 日発表）では、平均気温はほぼ平年並とされており、多発生の状況は継続すると考えられる。

4 防除上の注意

- (1) 圃場周辺の除草を徹底する。ただし、出穂直前の除草はカメムシ類を圃場内に追い込む可能性があるため、出穂 15 日前までに行う。
- (2) 出穂期の定期防除で圃場密度を下げ、乳熟期～糊熟期（出穂後 10～15 日）に追加防除を実施する。それでも発生が減らない場合は、追加防除の 7～10 日後に再度防除を行う。なお、ミナミアオカメムシに対しては MR、ジョーカー剤の効果が劣るので発生種に適した薬剤を選択する。
- (3) ミナミアオカメムシやクモヘリカメムシは、本田内でも繁殖し、斑点米の産出能力も高いため、登熟後期まで被害が続く。このため、防除実施後も発生状況には注意する。
- (4) 要防除水準は、乳熟期の捕虫網による 20 回掬取り個体数で 1 頭である。



クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ ミナミアオカメムシ アカスジカスミカメ  
写真 主な斑点米カメムシ類成虫

表1 本田及び畦畔における主要な斑点米カメムシ類の発生状況(7月中旬の定点調査)

作型	本 田				畦 畔			
	発生圃場率(%)		採取り虫数(頭)		発生地点率(%)		採取り虫数(頭)	
	R2年	平年	R2年	平年	R2年	平年	R2年	平年
早期栽培	58.3	22.9	6.2	0.8	55.6	33.5	2.9	2.3
普通期栽培	21.2	10.2	0.3	0.4	85.7	52.8	12.6	11.0

1) 採取り虫数: 捕虫網による20回振りでの個体数  
 2) 平年は平成22年~令和元年の10年間の平均

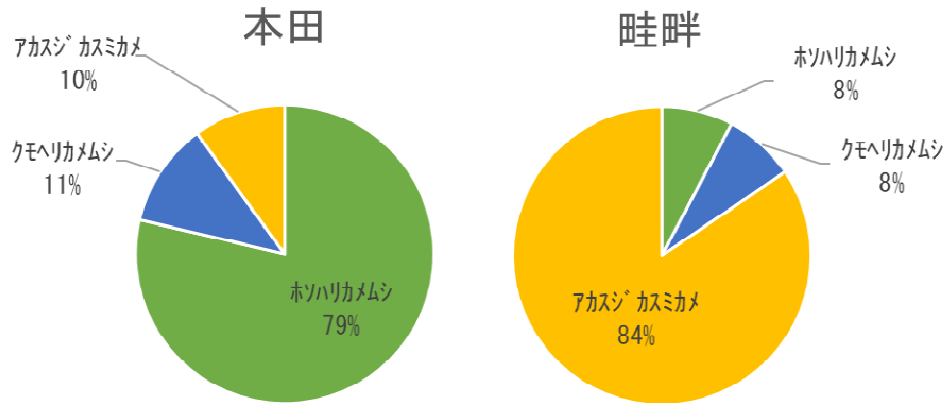


図1 本田及び畦畔における主要種(成・幼虫数)の発生割合(表1と同一の調査)

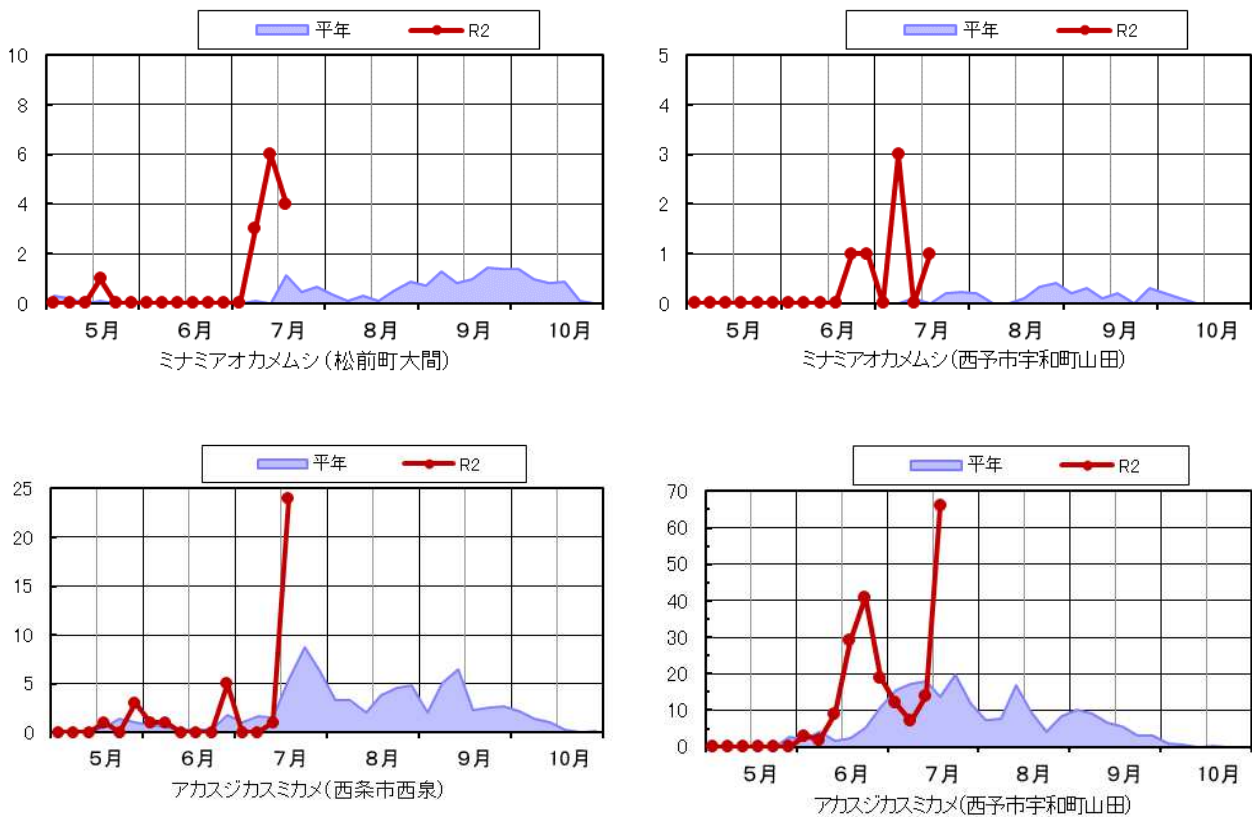


図2 ミナミアオカメシ、アカシジカスミカメの予察灯への誘殺経過(多誘殺地点)  
 ※数値は誘殺数(頭/半旬)